

# 視点

最近、大企業の社長と会うと、気づく。みな背広の襟にカラフルな丸いバッジを着けているのだ。「SDGs（エスディージーズ）」バッジ。「今年はずちもSDGsに力を入れます」と口々にいう。「Sustainable Development Goals」の略。「持続可能な開発目標」の意味だ。「地球温暖化を阻止する」「海の豊かさを守る」など十

七の目標達成に向け努力しよう」と各国が国連で合意した。企業が自らの利益追求ばかりでなく、地球温暖化対策などに取り組むのはいいことだ。だが、おかしいと思うところがある。

SDGsを説く一方、「原発再稼働はやはり急がない」といつ企業トップが多い



経済部長・池尾伸一  
の新・増設が必要と説く。原発は「持続可能なエネルギー」なのか。昨年未だ訪れた福島県飯館村では、放射能で汚染された土をばがして詰め込んだ土のうの山が、あちこちに残っていた。福島第一原発事故から

「二つの未来」の間で

## 原発「持続可能」は変だ

いのだ。経団連の「新成長戦略」に至っては「脱炭素社会の実現のため原子力は欠かせない」と再稼働だけでなく原発

たん事故を起せば、破壊された周辺の環境とコミュニティを回復することは極めて難しい。事故を起さなくても十数年先まで管理が必要な使用済み燃料の捨て場所は見つかるめどがない。企業の社長たちは将来の人々に大きなツケを残しかねない技術を「持続可

能だ」と心から言えるのか。変なのは政府も同様だ。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出を二〇五〇年までに実質ゼロにする

公約する菅義偉首相は「安全最優先で原発を進める」として、パリ協定達成のため原発を活用する方針。経済産業省の審議会でも幹部が「確立した技術である原子力を最大限活用すること明言した。だが、安全技術も使用済み燃料の処理策も未完成の原発が「確立した技術」と言えるのか。

〇年」を想像してみた。一つはCO<sub>2</sub>排出ゼロが実現した日本。車は全て電気自動車。調理や暖房も電気。だが電気の元の相当分は原発だ。捨て場所のない使用済み燃料が原発の敷地にたまる一方。

「なんてやっかいな発電システムを残してくれたんだ」と人々が文句を言っている。もう一つの「二〇五〇年」も同じくCO<sub>2</sub>ゼロ。違っただけは家々の屋根に太陽光パネルがあり、地方にも風力や小水力発電が立ち並んで電気を自給自給している。街中にあふれる緑がCO<sub>2</sub>を吸収する。三十年後のCO<sub>2</sub>ゼロ目標に向け政府や電力会社の取り組みが本格化する今年。私たちにはどんな未来を選ぶのか。ボタンを最初に掛け違うと取り返しがつかない。子どもたちに恨まれないよう心して臨みたい。

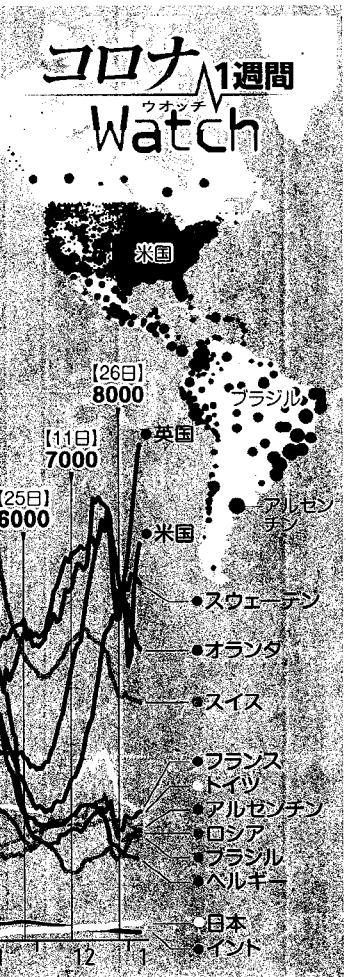
### 感染者数 (累計・6日現在)

	感染者数	死者数
1 米国	20,643,544	350,753
	+1,495,917	+18,330
2 インド	10,374,932	150,114
	+130,080	+1,675
3 ブラジル	7,753,752	196,561
	+248,919	+4,991
4 ロシア	3,308,601	59,951
	+177,051	+3,525
5 英国	2,774,483	76,305
	+391,614	+4,738
6 フランス	2,635,551	65,902
	+105,151	+2,201
7 イタリア	2,181,619	76,329
	+114,132	+3,300
8 スペイン	1,893,502	50,442
	(*)0	0
9 ドイツ	1,808,647	36,537
	+121,462	+4,430
10 コロンビア	1,686,131	44,187
	+82,324	+1,813
11 アルゼンチン	1,648,940	43,634
	+58,427	+766
12 トルコ	1,455,763	21,879
	+91,521	+1,491
13 メキシコ	1,455,219	127,757
	+65,789	+4,902
14 ポーランド	1,344,763	30,055
	+63,349	+2,036
15 イラン	1,255,620	55,748
	+43,139	+802
42 日本	252,317	3,719
	+25,721	+370
感染者総計	85,091,012	
	+4,307,376	
死者総計	1,861,005	
	+76,888	

※スペインは12月30日以降データが更新されていない。WHOまとめ。下段の+は1週間の増加数

※ジョンズホプキンス大学システム科学工字センターの「フュチャー」からの転載

デザイン：高橋建郎



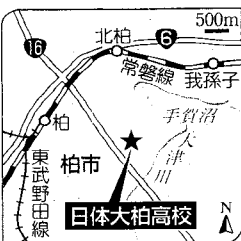
「アスリートの原風景」は第2金曜日に掲載します。

## アスリートの原風景

空手の組手 五輪代表・植草歩選手が育った

### 32 日体大柏高校

(千葉県柏市)



植草選手は三年夏のインターハイで全国三位になると、地元千葉で開かれた秋の団体で念願の優勝を果たす。花田さんは、その有言実行ぶりに舌を巻く。

「空手界のきやりーびみゆばみゆ」と呼ばれるなど、マナー競技の知名度と人気向上でも貢献してきた。東京五輪で正式種目となった空手だが、次のパリ大会は採用され

「道」と大書された部旗が掲げられた空手道部の道場は、ピンと張り詰めた厳かな空気が漂う。その道場の隅っこに、東京五輪の空手の組手女子61kg超級で金メダルを狙う植草歩選手(20)が今も母校を訪れている。何ともかわいらしい「物証」があった。

## 才能開花

「入学当初から、「こうしたい」「こうなりたい」とい

り入れたという。「野球部やサッカー部の生徒が「空手の動きを教えてください」と言って来ないが、植草は陸上部など他の部活の顧問や、スポーツ心理学の先生によく話を聞きに行っていた